



目 次

本のにおい	1
寄贈図書一覧（2019年1月～6月）	4
岐阜大学学術アーカイブズ・オープン記念式典を 開催しました	4

岐阜大学の古典籍（1）竹中半兵衛の子孫ゆかりの 版本が図書館に！	5
レポート作成のための図書館活用法	6
お知らせ	8



本のにおい

清島 絵利子

幼い頃、買ってもらった本を読んでしまうと次の新しい本が読みたくなり、「おかあさん、本買って」とねだっていた記憶が今でも鮮明にある。自宅のタンスの上には専用の本棚があり、絵本や童話が何冊も並べられていた。小さな本棚ではあったが、本が増えていくのがとてもうれしかった。『マッチ売りの少女』を読んだ時

には、少女が凍えている情景が目の前に迫ってきて、こんなにかわいそうな女の子がいることに衝撃を受けた。

また、幼稚園でも絵本を読むことが多かった。なぜかと言えば、友達と喧嘩をすると、廊下で絵本を読んで反省させられていたからだ。動機としては不純？だが、今となってはこの「絵本

タイム」に感謝をしている。天気の良い日などは、反省どころか、1人で気分よく外の景色を見ながら絵本を読んで楽しんでいたので、辛いと思ったことは少なかった。しかし、反省する回数が多かったせいで、廊下のラックにある絵本はほとんど読み尽くして何を讀もうかと迷うようになり、何度も読んだ絵本を開くことが増えていった。ある日、仕方なく、これまで避けてきた手足の長い大きなカニが海中を漂っている図鑑を眺めたところ、カニに襲われそうな錯覚に陥ってとても気分が悪くなり、夜になると思い出して寝付けなかったことを憶えている。

小学生になった頃には、自宅から徒歩で5分以内の場所に市立図書館が出来た。新築の建物のにおいがするなかで、オレンジ色のソファに座りながら自由に好きな本が読めるので、頻繁に通うようになった。自宅で購入できる本には限りがあるが、図書館には児童書以外にもたくさんの本があることに、とても感動した。本を借りると、図書カードに自分の名前が書かれ、それが増えていくことにちょっとした優越感があった。当初のお気に入りの本は伝記で、幼心にも、特にキュリー夫人に憧れを抱いていた。その後は、なぜか落語の本を読み始め、「オチ」が面白くてクラスで披露をしたものの、興味を持ってもらえず、少し寂しい思いをしたこともあった。この図書館通いも、10歳で他県に引っ越しをしてからは各段に減ってしまった。当時を振り返ってみると、小学生ではありながらも、図書館という空間に対して、自分の嗜好に合うか合わないか、居心地がよいかどうかを感じとっていたようである。

その私が再び図書館を訪れるようになったの

は、日本語日本文学科に在籍していた大学3年生の頃である。今は亡き、高校時代に世界史を教えてくださったK先生が、生前、大学時代の恩師であるN先生に語っていた言葉がきっかけである。「N先生の研究室は本のにおいがしていいですね」という言葉だ。K先生は家庭の事情で研究職に就くことを諦めざるを得なかったものの、専門である東洋史の書籍を読むのが好きで、研究室を訪れるたびに本棚を眺めてそう話していた、とのにN先生から伺う機会があった。それから数年経った大学3年生の頃、図書館の書庫に行くことがあった。書庫に足を踏み入れた瞬間、はじめて「本のにおい」を感じ、早くしてこの世を去ったK先生との思い出とN先生に語っていた言葉が脳裏に浮かんできた。K先生の無念さにも思いを馳せた。その時、自分の命がある間に、図書館にある何十万冊の本が自分の頭に入って知識や教養として蓄えることができるのであれば（無理なことではあるが）、こんなに素晴らしいことはないと思うようになった。その後、レポート執筆の際は、必要な書籍だけを借りるのではなく、参考文献に挙げられている書籍で興味を惹くものは借りて読むことにした。他大学の図書館にも何度も足を運んだ。A4数枚のレポート執筆であっても、毎回、借りて複写をした参考文献はA4のフラットファイル1冊分になった。それらの書籍を次々と読むにつれ、自分の知識や教養が広がっているのを実感することができた。実感できると「もっと知りたい、読みたい」という気持ちになるものだ。そんな時、ふと、大学図書館は、知的好奇心を満たす空間と機会を提供してくれる場であるということに気が付いた。同時に、

「自分では決して手に入れることのできない何十万冊という蔵書に囲まれて、自由に手に取って読むことができる。これは大学生の特権であり、もっと学問に食欲にならなければいけない」とも感じた。以降、図書館では書籍を借りて読むだけでなく、大学院入試のための試験勉強も行うようになった。特に長期休業の間は毎日図書館に通うことを日課とし、『言語学大辞典』を使って、試験勉強に励んだ。その結果、無事に大学院入試を突破することができた。

大学、大学院在籍時に執筆したレポートは、「万葉集における『色』の表記について」「日本の仏教における『蓮』の位置づけについて」「古代人の『夢』について」など、多岐にわたる。そのレポートは全てファイルに綴じて大切に保管している。会社員経験ののち、教員という職に就いてからは、大学や大学院でジャンルを問わず各種書籍を読んでいたことが、講義を行う上で非常に役に立っている。講義内容に関連のある事柄を話すと、興味深そうに聞いている学生も見受けられる。その姿を見ると、研鑽を積んでもっと多くの知識を伝えたいという気持ちになる。

本学の学生の中には、読書が苦手だという人もいるかも知れない。そんな学生には、とにかくジャンルを問わず1冊でも興味のある本を手にして読んでみて欲しい。1冊読破ということは考えず、惹かれる部分だけでも読んでみる。専門書であれば、必要箇所を読んだ後に参考文献欄を見てみると、目に飛び込んでくる書籍があるはずだ。そこでまた違う本のページをめくることによって、自分の知識や教養がどんどん

拡がり出しているのを感じることができるだろう。

今回の執筆にあたり、「本のにおい」は私自身の本にまつわる様々な思い出を想起させてくれた。一時期、足が遠のいていた図書館に再び通うきっかけを作ってくれたのも、まぎれもなく本のにおいであった。大学教員3年目の私の研究室はまだまだ殺風景で、本のにおいはしない。しかし、講義を通して本が好きな学生を1人でも多く育て、K先生に「研究室は本のにおいがしていいね」と言われるくらいの知識と教養を兼ね備えた人物に近づきたいと思っている。

(清島 絵利子：教育推進・学生支援機構
准教授)



寄贈図書一覧（2019 年 1 月～6 月）

2019 年 1 月～6 月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。

●牧 秀樹（地域科学部）

- ・誰でも言語学 / 牧秀樹著, 開拓社, 2019.4
【本館3階 スーパー 801||Mak】

～内容紹介～

本書は、言葉に関する面白い事実や不思議な性質をお伝えします。紫式部の癖や英語の癖など、気楽に楽しんでいただき、ご友人やご家族に、物知り顔で話していただければ幸いです。「ねえねえ、こんなの知ってる?」

●牧 秀樹（地域科学部）

- ・最小英語テスト(MET)ドリル / 牧秀樹著, 開拓社, 2019.6
【本館 3 階 830.79||Mak】

～内容紹介～

「ゲーム感覚で英語の力をつけたい」・「センター試験英語の聞き取りテストに慣れておきたい」そんな方に、この MET ドリルをお薦めします。2 種類あり。各回 3 分程度で学習者の英語能力を測定します。CD 付き。

●大藪 千穂（教育学部）

- ・ちほ先生が見た岐阜人の不思議 / 大藪千穂著, 岐阜新聞社, 2019.5
【本館 3 階 302.153||Oya】

～内容紹介～

関西出身のオバちゃんが岐阜に来て 25 年。これまで感じていた岐阜人の不思議を、〈食の不思議〉、〈日本一の不思議〉、〈岐阜人気質の不思議〉、〈岐阜ならではの不思議〉として 50 項目。イラストも楽しい♪

※内容紹介は著者または編者本人による

岐阜大学学術アーカイブズ・オープン記念式典を開催しました

2019 年 5 月 31 日（金）に図書館本館にて、岐阜大学学術アーカイブズ・オープン記念式典を開催しました。

式典では、平井岐阜県博物館館長から祝辞をいただいた後、関係者らによるテープカットと内覧会を行いました。

岐阜大学学術アーカイブズは、創立 70 周年記念事業の一環として開設され、図書館に設置されたアーカイブ・コアと学部設置された 3 つのアーカイブ・サテライトで構成されています。アーカイブ・コアには、岐阜大学の教員の研究活動を紹介する FUTURUM（フトゥールム）と、学内の各部局から収集された学術的、博物学的な資料を保管・公開する PRAETER（プラエテール）があります。

PRAETER は、原則非公開の収蔵庫と、曜日と時間帯を限定して一般公開しているオープン収蔵庫とからなります。詳しい公開日時は図書館 Web サイトのお知らせ欄でご確認ください。

●岐阜大学図書館 Web サイト

<https://www.lib.gifu-u.ac.jp/>



岐阜大学の古典籍（１）竹中半兵衛の子孫ゆかりの版本が図書館に！

教育学部国語教育講座准教授 小川 陽子

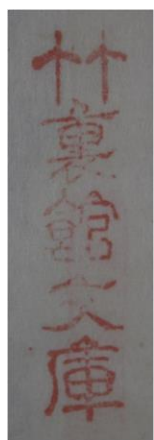
岐阜大学図書館には、近現代の書物だけでなく、江戸時代以前の古典籍も多数収蔵されています。『古今和歌集』や『奥の細道』『南総里見八犬伝』といった文学作品もあれば、史書、仏書、地図、教科書などもあり、ジャンルはさまざまです。『岐阜落城軍記』『関ヶ原合戦図』のような岐阜にゆかりのある書物、あるいは『白氏文集』などの漢籍もあります。岐阜大にやってきた経緯もさまざまですが、現在は特別資料庫で大切に保管されています。この古典籍たちを、主に岐阜との関わりに注目しながら、ご紹介していきます。

『独吟』（整理番号 912.3/26.1/78369）は、8巻8冊に目録1冊を付した、9冊の本です。「明和二年乙酉林鐘」の刊記があることから、明和2年（1765）6月に刊行された、『明和改正謡本』と呼ばれる謡本の一部であることがわかります。謡本は、能の歌詞に譜をつけたもので、謡曲をうたうためのテキストとして用いられました。『明和改正謡本』は、観世流15世宗家の観世元章が、田安宗武、賀茂真淵らの協力のもとで謡本の大改訂を行ったものです。元章は、詞の文法的な誤りを正したり、内容を歴史的事実にできるだけ近づけたりと、徹底して改訂にあたりました。



岐阜大学本『独吟』は、版本すなわち出版物で、書物としてはさほど希少なものではありません。ところが、伝来という点からみると、この本は岐阜にまつわる興味深い事実を教えてくれます。

そもそも書物の伝来には、さまざまな形で関わった人がいます。書写した人あるいは刊行した人、所持した人……。所持した人は一人とは限りません。贈与や貸借、売買などによって所持者は移り変わります。伝来に関わったすべての人を知ることは容易ではありません。しかし、書物のメモ書きや、捺された印（蔵書印）などによって、その一部を知りうる場合もあります。



岐阜大学本『独吟』には、幸い、「竹裏館文庫」という蔵書印が捺されています。この印は、これまで竹中重門のものとされてきました（『国史大辞典』ほか）。竹中重門（1573～1631年）は、豊臣秀吉の軍師として知られる竹中重治（半兵衛）の子で、美濃国不破郡に生まれました。秀吉に仕え、不破郡に五千石を与えられましたが、関ヶ原の戦いでは西軍から東軍へ寝返りました。和漢の学問に通じ、秀吉の伝記『豊鑑』を著したことでも知られています。垂井町の竹中氏陣屋跡には、重門が構えた陣屋の正門と石垣が残っています。

従来の説によれば、「竹裏館文庫」印は、この竹中重門のもので、ところが、岐阜大学本『独吟』は、明和2年（1765）すなわち重門没後の刊行物なのです。この本に重門が印を捺することは不可能です。とすれば、「竹裏館文庫」印は、重門個人の印ではなく、竹中家が代々その蔵書に用いた印であったと考えるべきでしょう。次回、他の資料を確認しながら、このことを検証していきます。

レポート作成のための図書館活用法

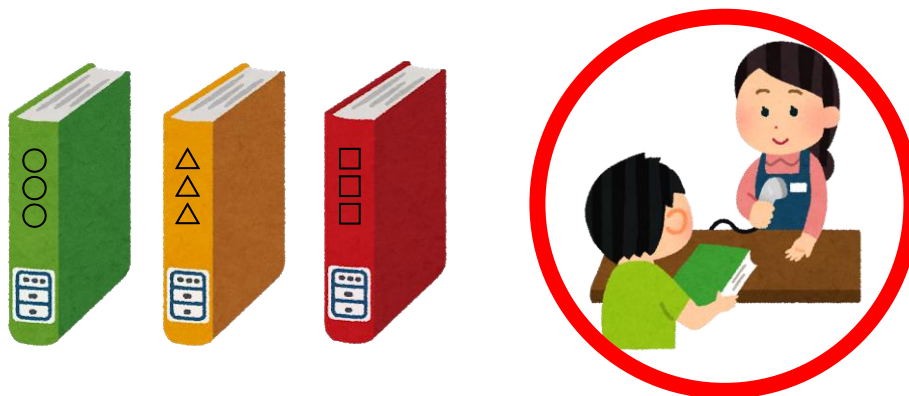
岐阜大学で学ぶ学生の皆さん向けに、図書館職員からレポート作成に役立つ図書館の使い方をご紹介します。今回のテーマは「図書館にはどんな資料があるのか」と「図書と雑誌の探し方」です。

1. 図書館にはどんな資料があるのか

岐阜大学図書館で所蔵している資料は主に、「図書」と「雑誌」に分けられます。

・図書

→ 図書とは、小説や教科書、参考書、辞書といった、一般的にイメージされる「本」のことをいいます。岐阜大学図書館では、貴重資料を除く図書は、貸出手続きをすることで図書館外に持ち出すことができます。（一部例外あり）



・雑誌

→ 雑誌とは、同じタイトルで定期的または不定期に継続して発行される、「複数の論文、記事によって構成されている」本のことをいいます。岐阜大学図書館では、雑誌は原則図書館外に持ち出すことができません。



2. 図書と雑誌の探し方

どちらの場合も、岐阜大学図書館蔵書検索（OPAC）を使って検索することで、岐阜大学図書館が所蔵している図書と雑誌を探すことができます。

※検索に利用できる主なキーワードは「タイトル」「著者名」「出版社名」「主題」です。目次や本文、雑誌に掲載されている論文単位で検索することはできません。



・図書の探し方

→ 検索結果の中に読みたい資料を見つけた場合、そのタイトルを選択すると、それがどこにあるのかを知ることができます。図書の場合、「所在」（図書館内の大まかな場所）と「請求記号」（所在の中での並び順）の欄が重要な情報です。



・雑誌の探し方

→ 雑誌の場合、「所在」と「所蔵巻号」の欄が重要な情報です。雑誌は所在の中に、タイトルのあいうえお順（またはABC順）で並んでいます。



/// お知らせ ///

図書館講習会の開催について

岐阜大学図書館では、11月に論文の探し方講習会（日本語論文・英語論文）、12月にデータベース講習会（Scopus、Mendeley）の開催を予定しています。

日程が決まり次第図書館 Web サイト等でお知らせいたしますので、積極的な受講をお待ちしております。

学習や研究に、是非お役立てください。

※詳しくは図書館 Web サイトでお知らせいたします。

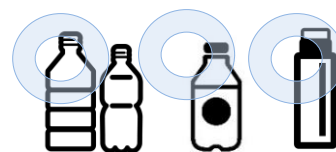
図書館の飲食ルール：持ち込み可能な飲み物について

館内は原則飲食禁止となっておりますが、水分補給等の健康上の理由から、フタ付きの容器に入った飲み物に限っては持ち込み可能としています。皆が気持ちよく図書館を利用できるよう、ご協力をお願いします。

【持ち込み可】

ねじ式のフタ付き容器に入った飲み物は OK です。

例：ペットボトル、スクリューキャップの缶、マイボトル



【持ち込み不可】

フタないものは不可です。また、フタがあっても、倒れれば簡単にこぼれる物は不可です。

例：カップ、紙パック、プルトップ式の缶、チルドカップ、トラベラーリッド付きカップ（コンビニでテイクアウトするホットコーヒーなど）



【タイトル「寸胴」について】

図書館エントランスホールにある陶壁画「寸胴譜」（作：九谷興子 1911-1998）は、陶器の原型「寸胴」を学生や若い研究者になぞらえ、社会への飛躍をイメージした作品で、図書館報のタイトルはそこから採っています。



岐阜大学図書館報「寸胴」第61号 2019年10月31日

編集・発行 岐阜大学図書館（学術情報課）

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 ☎058-293-2184